

安全装備を着けて笑顔で川流れを体験する児童たち



川流れや魚捕り体験

開西小児童 自然との関わり方学ぶ

帯広開西小学校(山崎則夫校長)の1年生52人が19日、伏古地区(西21南2付近)の帯広川で「カッパの川流れ」と魚捕りを体験、川での安全な遊び方と豊かな自然を生活科の授業で学んだ。

帯広川伏古地区子ども水辺協議会(関川三男会長)、

NPO法人十勝多自然ネット(西江靖幸理事長)から21人が協力した。関川会長が「川は楽しいけど怖いこともあるよ。必ず大人と一緒に行くこと。川に入るときにはだしはだめ、必ず靴を履いてね」と指導。児童たちは子供用ライフジャケットとヘルメットを

着けて、おおむけで脚を下流に向ける姿勢で笑顔で流れた。

膝近くの深さから徐々に深い場所に移って距離も約10メートルから約30メートルに長くしていった。安藤太一郎君は「水が冷たかったけど気持ちよかった」。アメリカから帯広に滞在中のグロスハンズ・マックス君は「宇宙に浮かんでいるみたいだった」とご満悦。

続いて網を使っての魚捕りも体験。川岸の草の下で魚を捕まえる方法を教えてもらい、「お魚捕れた!」と歓声。ドジョウやウグイなどを水槽に入れて観察した。山崎校長は「地域の皆さんのおかげで実施できる。川は危険もあるけど豊かな自然があって大事だということ勉強してほしい」と期待していた。21日には2年生42人も体験、2学期の8月には3、5年生が総合的な学習の時間で川での授業に臨む予定だ。(横田光俊)